



素晴らしい文化祭でした

■□更なる高み「演劇」と「合唱コンクール」□■

- ◎昨年は「『ベニスの商人』という完成度の高い演劇」で総合芸術としての演劇に魅力を感じた人が多くいました。保護者の皆様や地域の皆様からも中学生の表現力に高い評価をいただきました
- ◎今年の文化祭を見ながらうれしかったのな、まず、「自分たち自身が『良質な文化』（演劇や合唱）を楽しもう」としていることでした。
- ◎次に、運動会と同じように、三年生を中心にして、「先輩が築いてきたものを越えよう」という意気込みと、ただふざけたり騒いだりするのではなく、「規律を持って『お祭り』の雰囲気を高める」という自覚の中で取り組めたことです。
- ◎今年はいよいよ、二大行事が、「取組を通じて成長した私たちを見てもらおう」、「根っ中の良さを見てもらおう」という「校風」になって定着したと受け止めることのできた文化祭だったと思います。

- ◎ある保護者の方からは、生徒の頑張りを誉めていただいただけでなく、「校長先生、今日見に来てよかったです。私もこの時代に中学生だったらよかったです。」と涙しながら感想を聞かせていただけたことが何よりでした。



生徒会役員の工夫を凝らしたオープニングでは、これまでのクラスごとの合唱の取組が映像で流れました。その取り組みを完結させるのが二日間の文化祭であること、二日間の「P I E C E」（パズルのコマ：文化祭テーマ）をしっかりはめて、生徒全員が「つながりを深める」こと、が呼びかけられました。



シェークスピアの代表的な作品である「ロミオとジュリエット」。昨年に続きこの大作をどう演じるのか、「悲恋」をどう演じるのか楽しみでした。25人のキャスト、45人のスタッフが一丸となり、観客も見入ってしまう素晴らしい演劇となりました。



12枚の写真で何を表そうとしたのか、こんな乱暴な「学校たより」でいいのか?、自問自答しながらも、タントでのあの涙が流れる体験を何度も何度も思いおこしながら余韻に浸っています。